英國初學教育條例

三

特279-308
1200501132330
特279
308

始

特279
308

第二十四章學務局ヨリ復タヒ學校ヲ以テ

辨理者ニ交付スル事

何レノ所ヲ論セス学校若クハ土地所有物等ヲ以テ曾テ其辨理者ヨリ学務局ニ向ヒ之ヲ付托セシ丁有リテ學務局ヨリ復務局ヲ返与セント欲スル時アレハ統学院ノ准許ヲ経シ後下條登載スル所ノ處決ニ依テ之ヲ辨理者ニ交付スヘシ而テ從前未タ該局ニ付与セサルノ時ニ於テ保有セシ如キノ權利ヲ与ヒテ偏ニ之カ維持保護ヲ尽サシメンヲ要ス斯ノ既ニ交付スルニ当

成蹟藏

テハ特ニ学校所属ノ物品ノミナラス其他総テ
ノ附属物等ハ尽ク之ニ付与シテ一モ遺ス可ラ
サルナリ

前條ニ登載セル事件ヲ論決スル如キハ該局員
會議ノ造ニ列ナリ反復論辨シテ同議ヲ発スル
ノ人三分ノ二ヨリ少ナカラサルニ至レハ則チ
之ヲ決議トス可シ

統学院ハ是等ノ事件ニ就テ一ノ障礙ナキヲ考
定セハ直ニ之ヲ允准スヘシ若シ夫レ斯ノ如キ
学區ヨリ学務局ニ依テ借用セル所ノ負債金及
ヒ学校ニ於テ消耗セル所ノ金額等ニ至ル迄其
出納授受ノ際ニ於テ一ノ渋滞ナクシテ洒然之
ヲ調辨セシカ或ハ設若ヒ未タ辨了セサルモ確
乎其目途ヲ定ムルニ非レハ決テ之ヲ允准セサ
ルヘシ

斯ノ如ク復タヒ交付セラレタル學校ノ如キハ
学務局ヨリ復タ之ヲ統轄セサルハ素ヨリ論ヲ
俟タス百般ノ事件渾テ従前学務局ニ付与セラ
レサリシ時ト同一ナランヲ要ス

第二十五章　学務局所属ノ權限及ヒ学校

謝金ノ事

学區内住處スル児童ニメ父母ノ貧困ナルヨリ謝金ヲ納ムル能ハサル者アレハ強テ之ヲ納メシメス六ケ月ニ踰ヒサル時限ニ於テ全額若クハ一部分ヲ前章已ニ之ヲ詳説ス学務局ヨリ之ニ代リテ納ムヘシ其父母ノ自ラ撰ヒテ他ノ学校ニ參候スル如キノ児童ハ斯ノ如キノ處分ヲ為ス可ラス且ツ斯ノ如キ謝金代納ノ了ハ其父母ニ給与スル所ノ濟貧税地ノ扶助ト同一ノ省ヲ為スヘカラス

学務局設立ニ係ル所ノ学校ニ於テ謝金ヲ宿免スルノ事ニ就テハ第十七章ヲ省ルヘシ而メ亦学生ヨリ更ニ謝金ヲ納ムルヲ要セサル所ノ学校設立ノ事ハ第二十六章ヲ省ルヘシ父母タルモノヽ貧困ヨリ其児童学校謝金ヲ以テ之ヲ学務局ニ依頼スルニ当リ其貧困ノ度果シテ然ルヘキヤ否ヤノ實際検査ヲ為シテ之ヲ決スルハ該局權限中ニ係属スル者トス

児童ノ就学スル学校ハ通常学校法教学校ヲ

論セス苟モ公立初学々校ニ係ル者ハ一切第七章ノ條款ニ依リ貧困児童ノ謝金ハ学務局ヨリ代リ納ムヘキナリ

蓋シ貧困児童ノ為学務局ヨリ其謝金ヲ納ムルヲ以テ其父母ニ對シテハ毫モ濟貧税地ノ扶助ト同一ノ看ヲ為スヘカラサルノ意義ハ亦下文ノ説ク所ニ於テ了解ス可キナリ乃チ我カ児童教育ノ謝金タモ辨スル能ハス却テ学務局ヲ煩ス如キノ父母ハ上下議院ノ委員及ヒ都府公會委員ヲ撰挙スルニ当テ発言投票スヘキノ権利ヲ失ヘル者ナレハナリ

家則ハ此章ニ従フテ學務局ノ處分ヲ規正センカ為メニ設ケタル者ナリ「リヴ」ルフール港市学務局ノ家則ハ乃チ此意旨ヲ包含スル者ニノ附録第三百十葉ニ載セタリ

第二十六章免謝学校ヲ設立スル事

其学務局ニ於テ其管轄学區中従来居民ノ貧困者多キ地ニ於テ一個ノ学校ヲ設立シ必シモ謝金ヲ納ムルヲ要セサルモノトシ頗ル教育ノ利益ヲ布クニ便ナラシムルニ定リ続学院ニ於テ

モ果シテ其拳ヲ可許スル件ハ則チ該局ニ在テ
統学院所定ノ諸規則諸條約ニ遵順シ一種此ノ
如キ学校ヲ開設シテ其貧困家ノ児童ヲシテ学
資ノ為メニ拘束セラルヽヿナク自由ニ入学講
習シ得セシムルヿアリ
第十七章及ヒ第二十五章ニ論スル所ノ条欵
ニ據ルニ凡ソ父母タル者ノ甚タ貧窶ニシテ
其子ノ謝金ヲ資スル能ハサルノ故ヲ以テ学
務局ヨリ之ヲ免償スルヿヲ見ルニ此免謝
学校ヲ設立スルヿハ時アツテ止ヲ得サルヿ

アルモ敢テ常ニ在ル所ノモノナラサルヿヲ
知ルヿ可キナリ
「ハンサルド」氏所著論説類書第百九十九篇四
百五十五葉ヲ看ルニ此事ニ関シ同氏自ラ意
見ヲ陳スルアリ其言ニ曰ク余意フニ凡ソ非
常已ムヲ得サル事情アルニ当テ別ニ此免謝
学校ヲ設立スルヿハ学務局ヲシテ其權力ヲ
有セシムルヿヲ可トス然レ𪜈此学校ヲ設クル
ハ専ラ大都會ノ地ニ適スルモノニシテ而シ
テ其之ヲ設ケント欲スルニ方テハ先ツ其區ノ

情態ヲ具書シ必ス設ケサル可ラサル所以ノ証左ヲ明挙シ以テ政府ニ上請シ其准許ヲ受ケ始メテ之ヲ設クルヲ得ヘシ而シテ苟モ其許可ヲ得サル以上ハ決シテ開設ヲ得ルヲサルモノトス若シ否ラスシテ別ニ已ムヲ得サル事實アルニ非ス且ソ政府ノ批准ヲ経ス土地ノ便宜ヲ擇ハス各自ノ意見ヲ以テ妄リニ之ヲ設立スルヿヲ許可スルヰハ大ニ他ノ尋常学校ノ為メニ妨害ヲ生スルニ到ルヘキノミ

第二十七章動競學校ニ寄進スル事

「ヴィクトリヤ」女王律令書第百十八篇廿九

三十両号

一千八百六十六年発行動競學校（義下ニ見ル）ノ寄進条例第十二章ニ據ル ニ學務局ニ在テ此ノ如キ學校ニ寄進スルヿヲ得ルハ猶牢獄司ノ學校ニ寄進スルト同一ナリ而シテ縣地ニ依テハ既ニ學務局ヲ設置スル以上ハ該縣ノ参政官モ該章ノ制規ニ由リ寄進金ヲ管制スルノ権ヲ有セルモノトス

所謂一千八百六十六年発行動競學校條例第十二章トハ下段ノ如ク確定スルモノニシテ英國ニ於テハ牢獄司ニ於テ時々若干ノ金額ヲ備ヘ學校ニ寄進スルヿアリ蓋其寄進スル由縁ノ旨ハ或ハ該校ノ結構ヲ改造シ教場ヲ廣大ニスルカ為メニシ或ハ入校生ヲ支給シ諌校管理上ノ需用ノ為メニシ或ハ此ノ如キ確實盛大ナル學校ヲ致クス可キ目的ヲ以テ新ニ一校ヲ營築センカ為メニシ或ハ既ニ其確實ヲ得ル所ノ學校ニ就テ需用ヲ充備セン

カ為メニシ或ハ為メニ地場ヲ買辨シ或ハ器什ヲ整具スル等苟モ該司ノ適当ト見為スヿアルコトニ時期ヲ定メスシテ寄進スルヲ云フナリ蓋之ノミナラス更ニ左条ノ如ク規則ヲ定設セリ

第一　凡牢獄司ヨリ右ノ寄進ヲ為サントト欲ル中ハ二月以前ニ於テ先ツ其旨ヲ報告シ報書中ニ其時日ト場所トヲ記シ之ヲ其縣其郡各區普行二三ノ新聞紙ニ登載シ焉テ之ヲ執行ス可キ方法ヲ明示シテ一般ヲシテ預メ知

了セシムルヲ要ス

第二　牢獄司ノ吏員ニシテ縣地ニ參政タルキハ其寄進ヲ為ス可キ命令ヲ出タスニ參政ノ會合ヨリスルヲ法トス

第三　既設未設ノ學校ニ就テ結構營築ノ為メ又ハ校地買入ノ費用トシテ右ノ寄進ヲ為スキハ先ツ之ヲ邦務総宰（日本内務卿ノ如シ）ニ上申シ其允許ヲ待テ而シテ后之ヲ施行スルヲ法トス

又三十六章ニ依ルベ學務局ニ於テ右競勵學校

児童ノ為メニ扶助金ヲ文與スルヿアルキハ之カ為メ所要ノ事務ヲ管理スルカ為メ別ニ吏員ヲ命使スルモ妨ケナシトス

第二十八章勤競學校設立ノ事

一千八百六十六年ノ勤競學校條例ニ據ルニ學務局ニ於テ是等ノ學校ニ関シ設立造營保守等ノ事ヲ執行セント欲セハ先ツ統學院ノ允許ヲ受ケ而シテ后之ヲ施スヲ得ベシ而シテ之カ設立ニ着手スルニ當テハ猶ホ彼ノ學校供給費ヲ收集スル時ノ如キ權力ヲ有スルモノトス然レ

氏王家事務元老ノ管理ヲ受ケサルヲ得サルヿハ校長ト異ナルヿアル可ラス蓋以上所示ノ各條款ハ右等ノ學校ニテ管理ス可キ方法ナレハ此書ノ條例トハ必シモ關係ス可ラサルモノトス

所謂一千八百六十六年発行ノ條例ニ由レハ動競學校ナルモノハ児童ノ常ニ居住シテ飲食衣服ヲ為シ兼テ教育ヲ受クル所ノモノナレハ今一校ヲシテ確實ノ動競學校ナラシメント欲スルトキハ邦務総宰ノ明訣ヲ得テ果シテ其校ノ此條例ニ違ハス児童ヲ寓宿セシムルニ適當タルヲ證スルニ足ラシムヿヲ要ス抑動競學校ニ入ラシム可キ児童ハ下ニ示ス所ノ如キ者ニ限ル

凡ソ児童ノ年齢十四歳以下ニシテ法官審吏ノ視察ヲ受ケ下ニ陳スル所ノ情態ヲ致タスモノハ則動競學校ニ入ルヲ得セシム

第一施物ヲ乞ヒ之ヲ受クルヲ業ト為スモノ

假令物品ヲ列ネテ之ヲ賣ルヲ名トスルモ其實ハ乞丐ニ異ナラサルトキハ之ヲ同視スト其施

物ヲ乞テ街間ニ漂泊スル者第二ニハ處々ニ
彷徨シテ家屋ナク現ニ衣食等ヲ儲ヘサル者
第三ニハ父母ノ罪犯ニ由テ懲役ニ処セラレ
又ハ牢獄ニ在ル等尚存在スト雖モ育養ヲ受
クル能ハス不幸ニシテ孤子トナル者第四ニ
ハ屢次賊徒ノ夥伴ニ加テ不良ヲ為セシ者等
是ナリ

又其年齢十二歳以下ニシテ入牢セシム可キ
罪ヲ犯シ或ハ其罪稍軽シテ法官審吏ノ判決
ヲ受ケ罪科死ニ至ラサルヲ明ニスル者

又ハ十四歳以下ニシテ父母親族ヨリ法官ニ
出訴シ其児童ヲ育養シ能ハサルヲ具陳シ
勤競學校ニ入ラシメンヲ熱望スル者
其他十四歳以下児童ノ役来教育場濟貧學校
等ニ在ル者ニシテ其管理吏員ヨリ之ヲ法司
ニ上告シ其児童ノ親タルモノ懲役入牢等ノ
罪ヲ犯セルノ故ヲ以テ斯ニ在ラシム可ラス
トスル者
都テ児童ノ此ノ如キ者ハ之ヲ二法司審吏ノ
前ニ出タシ判決指令ヲ受ケシメ果シテ勤競

學校ニ入ラシム可キヤ否ノ処分ヲ受ケシム
ルヲ要ス蓋其指令ヲ受タルニ當リ代理人ヲ
以テスルハ妨ケナシ
又一千八百七十一年発行罪犯豫防條例ハ動
競學校ニ児童ヲ入ラシムルヿニ就キ詳細ニ
論示スルヲ以テ今之ヲ該書三百五十三条ニ
記載セリ就テ見ル可シ
凡ソ動競學校在留ノ児童ニ就キ之ヲ解放シ
之ヲ轉校セシムル事ハ邦務総宰ノ權内ニシ
テ而シテ都テ學校管制ノ法則規律ヲ処裁ス

ルハ皆此総宰ノ權任ニ属シ一事ヲ改革シ一
物ヲ増加スルモ苟モ其許可ヲ得サルヿハ敢
テ校内ニ入ルヽヿヲ得ス加之其學校ノ事情
ニ於テ総宰ノ不可トシ視ルモノアルヿハ其
教師ノ教師タル可キ証書ヲ奪取シ之ヲ除去
ス可キ權理ヲ有ス又邦務総宰ニ於テ動競學
校児童ヲ保護スル為メ所要ノ資金アルヿハ
王家ノ會計委員ヨリ其金額ヲ交與スルヿア
ル可シ又其児童ノ為メニ父母親族ヨリ扶助
金ヲ納ムルヿハ一週コトニ「シルリング」ヲ

過キサルヲ法トス

凡學務局ノ權力ハ諸學供給ノ用度ヲ集収スルヿヲ得ル者ニシテ此動競學校設立保持ノ事ニ到テモ亦其權内ニ屬スルモノトス第十八十九二十ノ三章ヲ以テ尚之ヲ詳説ス

第二十七章學務局設置及ヒ其躰段

凡ソ學務局ノ吏員ヲ撰舉スルノ法ハ該條例ノ方法ニ據ルニ縣地ニ在テハ其縣下人民ノ名簿ヲ以テ之ヲ選ヒ（第一註解ニ詳ナリ）首府外ノ濟貧税地ニ於テハ出税人ヨリ之ヲ拔擢ス（第二註解ニ詳ナリ）

註解第一凡學務局ノ吏員ヲ撰任スルヿハ各縣「ヲキスホルド」（ハ之ヲ除ク）皆其縣下人民ノ名簿ヲ以テシ首府ハ第三十七章所示ノ法ニ從ヒ「ヲキスホルド」ハ第九十三章ノ法ヲ以テス「且「ウィクトリヤ」女王律令書第五十五篇第一章三十二三両号ニ據レハ歳ノ七月三十一日ニ於テ之ヲ検點シ其以前十二月間始終縣下ニ在テ家屋庫藏房舍舗店等ヲ構ヘ居住ヲ占メ縣地近傍七里以内ニ住スル者ニシテ既ニ成長スル所ノ者ハ男女ヲ問ハス皆第四世維廣王即位後

五六両年ノ會議ニ於テ決定セシ條例ト其改正條例第七十六章中ノ条款トニ從ヒ其名ヲ簿中ニ登録シ総テ社會ノ負ニ備ハルヲ得ヘシ既ニ會負ニ加ル以上ハ縣地ノ高官ナリ市尹ナリ市長ナリ其力ニ由テ高官ニ上ルヲ得セシム加之當時制定セシ條例ハ第一右等ノ居住人タリ𪜈家屋ノ廣狹ニ應シ濟貧税地中貧人扶助トシテ出タス可キ税額アツテ此條例ニ由リ一月五日ヲ以テ之ヲ納ムルノ法則ナレハ若シ其他ノ諸税金ヲ合シ七月十二日前ニ其全額ヲ納メ得サルトキハ其人ニ限リ簿中ノ姓名ヲ除去スルヲ法トス又一条其外國ヨリ来住スル者ハ何等ノ人タリ𪜈其名ヲ簿中ニ加ヘス又一条七月三十一日前十二月間濟貧税地ノ扶助ヲ受ケ其他苟モ他人ヨリ支給ヲ受クル所ノ者ハ是又敢テ名簿ニ載セス又縣地ニ由リ其學務局ノ吏員ヲ撰挙スルノ法全ク同一ナラサルモノアリ是事ニ関シ統學院所定ノ規則アリ附録第百九十八葉ニ登録ス

註解第二百府縣地ノ管轄外ニ在ル濟貧稅地ニ於テ學務局ノ吏員ヲ選擧スルノ法ハ出稅人一般ニ就テ之ヲ選フ

所謂出稅人トハ第三章詰解ニ於テ辨解スル所ノ如ク一千八百六十九年發行貧人稅額及ヒ集稅條例ノ条款ニ拠リ出稅スル所ノ者ヲ總稱ス

又此濟貧稅學務局吏員撰擧ノ方法ハ是ニ統學院所制ノ規則アリトス附錄第二百十葉ヲ見ル可シ

長老集會投票條例ニ據レハ濟貧稅地中ノ出稅人タリヒ其稅額ヲ納ムル丁此集會前三月以内ニ了ル者ニ非サレハ集會ニ投票スルノ權ヲ有セサルモノトス而シテ貧人稅條例ト集稅条例トニ依レハ其稅ハ地主ヨリ出スモノタリヒ居住人アレハ居住人ノ出金トシ視ルヲ法トス故ニ第三章出稅人ノ辨解ニ示セル如ク爰ニ一個ノ居住人アツテ適宜ノ稅額ヲ出セル者ト視爲サル、片ハ假令其實出稅スル丁無キ者ト雖ヒ學務局吏員ヲ選擧スル

ニ當テ投票スル人ノ權利ヲ害スルヿアル可ラス

又他ノ遺領ヲ受クル者ニシテ居住人ノ出タス可キ稅額ヲ代償スルヿ有ルニ當テハ其地主居住人共稅額ニ應シ之ヲ納ムルノ事務ヲ擔當ス可キ權アルカ將タ居住人ノ特權ニ歸スルカノ一疑案ヲ發スルトキハ則チ統學院ノ遞廻狀ニ由テ之ニ決答スルヲ得可シ蓋該狀ハ一千八百七十一年十一月十四日所發ノモノニシテ倫敦府學務局吏員撰舉ノ事ニ就キ出稅人ニシテ首府區中ノ吏員タルヲ得可キ者ニ示セルモノ其文書ニ據ルニ統學院ニ於テハ貧人稅則ト集稅條例第四章トニ由リ凡ソ長老集會ノ指令等ニ從テ出稅スルモノハ地主居住人共必ス撰舉ノ投票ヲ爲ス可キ權利ヲ有スル者ト視爲セルヿヲ知ルニ足レリ

第百九十五案ヲ見ルヿ可シ又地主ノ自ラ好ンテ居住人ニ代リ出稅シ長老集會ノ指令ニ由ルニ非ル者ヲ區處スルノ方法ノ如キモ同シク第百九十五案ニ詳說ス就テ其細悉ヲ看ル

可シ

又出税人タルノ諸解ニ就キ各般ノ条件アリ是亦上条所示ノ統學院逓廻状中ニ詳ニス(附録第百九十四葉ヲ参看スヘシ)

凡出税人ト称スル所ノ者ハ寺領ノ扶助ヲ受クヘキヲサルモノトス是其投票者タルモノハ必ス受ケサルヲ以テ法トスレハナリ

濟貧税地中學務課ノ吏員ニ撰任スヘキモノヽ人員ヲ知ラント欲セハ須ラク第三十一章ヲ見ルヘシ

又聯合學區ニ於テ學務局ノ吏員ヲ撰挙スルノ法ハ第四十六ハ両章ニ詳録シ又濟貧税地ノ縣地ト境界ヲ接スルモノヽ如キハ第七十七章ヲ以テ之ヲ明ニス其第五十章ニ於テハ他區ノ學務局ヘ資本金ヲ贈クル所ノ學區ヨリ該區ヘ出タス可キ吏員ヲ撰挙スルノ方法ヲ詳説セス

凡テ右等ノ撰挙ニ於テハ其投票者タルモノハ其撰挙ス可キ吏員ノ数ニ等シク投票ヲ為ス可キ權利ヲ有スルモノニシテ其多数ノ投票ヲ為

ス可キ權利ヲ以テ或ハ一個ノ候欽者官吏ノ欽員ヲ候ヒ之ニ代ラシト欲スル者ヲ拔擢ス可ク或ハ數名ノ候欽者ヲ撰任ス可シ

凡ソ通常ノ長老集會ニ於テ之ニ出會スル者ノ投ス可キ票數ハ各自所出ノ稅額ノ多寡ニ從ヒ多少變換スルヿアルモノトス（第三章四十二葉ヲ見ル可シ）然レトモ學務課ノ吏員ヲ撰擧スルニ方テハ投票者タルモノ一般同數ノ投票ヲ爲スヲ法トスト雖トモ其票數ハ撰擧ス可キ吏員ノ數ニ等フス

且投票者ハ各自ノ意見ニ由テ投票ノ數ヲ多少スルヿヲ得ルモノトス譬ヘハ爰ニ十五名ノ撰擧スヘキ吏員アリ投票者各自ニ十五個ヲ投票スルハ常ナリ而ルニ或ハ十五人ヲ撰擧ス可キ權力ヲ以テ一員ヲ撰ヒ或ハ五人ノ吏員ニ三個ヲ投票シ唯各自ノ獨見ヲ以テ撰擧ノ平等ナラサルカ如キハ敢テ妨ケナキモノトス

「デクソン」氏ナル者アリ一千八百七十八年四月一ツノ議案ヲ出タシ所見ヲ陳セシヿアリ

其所説ノ如キハ投票ハ悉ク之ヲ一個ノ候欽者ニ附スヲ可クヲ又ハ適当ト視為ス所ノ数人ニ分配シ得可シト云フノ法ヲ用ヒス學務局ノ吏員ヲ撰挙スルニ方テハ苟モ投票者タル者ハ一般ニ各自ノ所見ニ委シ許多ノ候欽者ヲ撰挙シ得ヘシト雖然レトモ其撰挙ス可キ人員ノ総数ニ踰フルニ到テハ尚ホ以テ不可トシ且一吏員ニ就テ一票以上ヲ投ス可ラストス蓋此議案ノ如キハ僅ニ一回ハ行ハルヽヲ得シト雖モ次回ノ撰挙ニ到テハ全ク廃止シテ用ヰラルヽヲ得ス

蓋人ノ選ハレテ學務局ノ吏員タラン欲スル者ハ必ス何々ノ才能ナカル可ラスト云フカ如キ事件ニ至テハ該書條例中一モ論示スルヿアラサルモノトス故ニ婦人ナリ男子ナリ一家ニ主タル者ナリ他ヨリ寄寓スル者ナリ現ニ留主セサル者ニ至ルマテ皆撰挙ヲ應ス可キ者トス然レトモ済貧税地ニ就テ学務局吏員撰挙ノ事ニ関シ統学院ヨリ下タス所ノ指令ニ據レハ只此候欽者タル者ハ必ス成長人

非サレハ得サルモノトス尚其詳細ハ第三十四章及ヒ第一篇第二部十四条ニ就テ考スヘシ

凡巡回救済ノ事務ヲ擔当シテ其職ニ仕セラレタル吏員ハ其補任并命ノ際ニ於テ契約盟誓スル所アルニ因テ地方政務局ヨリ特別ノ許可ヲ下スヿニ非レハ終始一轍勉焉其職ヲ修メテ決シテ他顧セサルヲ要ス然ルニ斯ノ如キ吏員ハ往々政務局ノ准許ヲ経テ永ク奉職セサル者ナリ

又首府中学務局々員ハ此條例ノ後条ニ掲載セル方法ヲ以テ撰挙スヘシ

学務局法制

第三十章学務局ノ法制ニ就テ下文ニ説明スル如キノ款條ヲ具セサル可ラス

第一学務局ナル者ハ其附属セル地方ノ名ヽニ由リ称セラレタル所ノ一社會ニメ（第一注）他人ニ向テ譲與ス可ラサルノ資産ト看做ス可キ者ヲ有スルノ允准アルニ非スト雖モ此條例ニ由テ土地ヲ受ケ永久之ヲ有スルノ權利ヲ得且信確ナル印章ヲ有シテ之ヲ授受スルヲ得ヘシ

聯合学校ノ如キハ統学規ヨリ指令スル所ノ名ヲ用ヒサル可ラス（第四十五章ヲ看ルヘシ）

〔注二〕一千八百七十一年間ノ発行ニ係リタル公園、学校及ヒ博物館ノ條例ニ拠レハ初学々校ノ為メニ土地ヲ寄附シ或ハ之ヲ譲与シ或ハ土地ヲ購フヘキ資財ヲ贈ルヿニ就テハ又譲與ス可ラサル資産條例ニ従フヲ要セサルヿヲ允准セリ而メ此條例中ニ掲示セル公立学校ニ関渉セル條款ヲ抄録スルヿ左ノ如シ

一千八百七十一年五月二十五日ニ於テ此條例ヲ発行セシ以来或ハ券状ヲ交付シ或ハ遺昏及ヒ附録昏ヲ附與シ或ハ初学々校ノ為メニ学堂ヲ営造スヘキ目途ヲ以テ土地ヲ寄附シ亦之ト同一ナル目途ニ於テ土地ヲ買フ可キ資財ヲ與フル等ノ方法ハ（ジヨーヂ）二世王ノ律令昏三十六篇第九號ノ成文律及ヒ通常譲與ス可ラサル資産ノ成文律等ニ拘ハラス綽然トメ能ク行ハル可キナリ

惣テ斯ノ如キ寄附ハ其憑証ヲ保有セル遺昏附録及ヒ券状其他熟考ヲ要セスメ判然其証

左ヲ手ス可キ書類ハ此條例ニ從フテ更ニ明確ナラシメンカ為メ遅クモ遺言者即チ准許者ノ死ニ先タツ十二箇月ヲ過キサル前ニ於テ之ヲ編成セサル可ラス而メ此遺書附録券状ヲ用ユル後六ケ月ヲ出サル中ニ於テ施済奪負ノ手書中ニ其事件ヲ登録セサル可ラス

然レ𪜈此條例ニ拠レハ遺書或ハ附録ニ由リ付與シタル土地ノ如キハ一学校ニ付キ一アクル日本ノ四反十八歩ハ二当ル ニ過キサルヲ要ス

此條例ノ主トスル所ハ寛裕暢達ニアリテ人ノ自由權利ヲ妨礙シ或ハ羈制縛束シテ事ノ不便ヲ釀シ人ノ怨懟ヲ招カサランヲ要ス今又註解ヲ加フルニ初学々校ナルモノハ只初歩教授ヲ以テ教育中ノ主要ト見做ス所ノ学校及ヒ分校ヲ称スルナリ其兒童輩ヨリ受業賃ハシテ出ス所ノ金額一週間九「ペンス」ニ過クルカ如キ学校及ヒ分校ヲ云フニ非ルナリ其学堂ナル者ハ教師ノ住宅及ヒ公園遊戯場其他学校ニ属シテ必要ナル凡百ノ家屋ヲ

概称スルナリ

第二 凡ソ学務局ノ處分決議ハ各員列坐ノ時ニ於テスト雖モ其間多サノ關員アルニ当テ後日ニ至リ其處分ノ得失ヲ議ス可カラス

然レトモ議員タル者必ス尽ク登庭スヘキハ素ヨリ論ヲ俟タス（d ノ第三追加条目第一号ヲ看ルヘシ）

第三 凡ソ学務局員ヲ撰挙スルニ当リテ設若シ濫撰輕挙アリト看做スモ概ネ之ヲ該局ニ帰シ人材ヲ監識セス處分ヲ失誤セリト謗ルヲ得ス是レ許多ノ吏員投票人ノ自ラ其責ニ任スルヲ有ルヲ以テナリ

第四 凡ソ学務局ノ集會ニ於テ其處分ヲ決セシ為メ意見議論ヲ記載セル草案ノ如キハ直ニ其會ニ於テ議定スルモ或ハ次回會議ニ遷延スルモ全ク学務局長ノ權内ニ在ルヲ以テ既ニ之ニ鈐印シ了レハ何事ヲ論セスメ之ヲ決定ス可シ而メ此草案中決議スル所ノ者ハ集會毎ニ其不便ヲ主張スル者アルニ至ル迄必ス之ヲ施行ス可シ其吏員モ亦之ヲ遵奉シテ適宜ニ事務ヲ

慮ガスヘシ

集會毎ニ上進スル所ノ吏員并ニ疑議アル毎ニ発言スル吏員ノ姓名ハ必ス之ヲ記載シ置クヘシ

第五　凡ソ学務局ノ吏員タル者ハ記マヲ其職務ヲ竭シテ毫モ畏避忌憚スルヿヲス其事務處分上ヨリ生スル所ノ費用ヲ支給セン為ニ假如ヒ非常過度ノ金額ヲ費耗スルモ決シテ之ヲ責メサルナリ

第六　学務局ノ處分ニ関スル所ニメ此條例第三附加条目ニ掲載セル規則及ヒ其他ノ事件ハ必ス注意セサルヿヲス

第三附加条目ハ学務局通常會議及ヒ非常會議ニ其處決スヘキ事務ヲ稟告ヨリ該局會議ノ定員、発言、議長副議長ノ撰挙、金貨出納ノ鈐印、指令ノ鈐印、吏員ヲ命スルニ関セル草案等ニ至ル迄ノ諸規則ヲ含有スル而メ該局ヨリ吏ニ他ノ事務ヲ統轄管理スヘキ許多ノ規則ヲ編成セリ

学務局吏員ノ撰挙

第三十一章 首府外ノ学務局ニ於テ此條例ニ従ヒ吏員ヲ撰挙スル ニ至テハ次条ニ掲示スル者ニ従フ可シ

〔注一〕首府ニ於テ学務局ノ吏員ヲ撰挙スルニ就テハ第三十七章ヲ看ル可シ

第一 学務局吏員ノ数ハ五人ヨリサナカラス十五人ヨリ多カラサル可シ是レ従来統学院ノ決定スル所ニメ後日ニ至ルモ特々該院ノ准許ヲ経テ之ヲ定メ必ス之ニ違フ勿レ

第二 此條例ノ第二節中ニ掲示セル学務局吏員黙陟ニ関セル規則中ノ件々ハ亦尚ホ此章ノ意旨ト相関渉スル所ノ者アリ

一千八百七十二年九月一日以前ニ於テ此章ノ掲載セル條款ニ従テ学務局員ヲ撰挙セシニハ特限方法規則ヲ問ハス一切統学院ノ指令セル所ニ従フテ施行セレヲ要ス且統学院ハ撰挙事務ニ関セル須要ノ吏員ヲ補任シ其他百般ノ要ノ事件ヲ管理ス可シ凡ソ撰挙ノ事ハ昏記官及ヒ投票人ヨリ其他撰挙事務ニ関與スル諸人ノ制定スル所ニメ其利害得失

ノ如キハ素ヨリ反復論辯ヲ尽セル者ナレハ
他人ヨリ輕ク駁議スヘキニ非ス（第一篇ノ第
二附加条目第七号ヲ見ルヘシ）
凡ソ撰挙ニ中ル者初回撰挙ニ非ルヨリハ必
ス三年ノ間其職ニ在ルヘシ三年ノ後之ヲ退
去スヘキノ日ハ亦統学院ノ制定スル所ニ由
ヘシ
又初回撰挙ニ中ルノ人ハ其任セラレシ日ヨ
リ三年ヲ過クルモ敢テ罷去セス其後ノ期限
ニ迄在職スヘシ（第二附加条目ヲ看ルヘシ）縣

地及ヒ府縣外ノ濟貧税地ニ於テ学務局負撰
挙ニ関セル統学院ノ規則ハ附録百九十八葉
及ヒ二百十葉ニ詳ナリ
第三　此條例ニ由リテ統学院ヨリ学務局ヲ創
立スヘシ然ルニ或時ニ於テハ市尹及ヒ其他ノ
官吏ニメ撰挙ノ事務ヲ處分カヘキ權利ヲ有ス
ル者ニ向テ此等ノ任ヲ命スルヿアルヘシ其市
尹官吏等ハ此命ニ從ハサルヲ得ス若シ之レ事
務ノ處決ニ於テ失錯スル所アレハ該院ヨリ更
ニ他人ニ任スヘシ而メ其代任ニ中ル人ハ前

人同一ノ權利ヲ有スル可キヿ素ヨリ論ヲ俟タス

學務局吏員ノ撰舉ニ中ラサル事

第三十二章今若シ某學區ニ於テ事故所由ノアル有リ學務局吏員ヲ撰舉ス可ラサルノ際ニ當テハ其撰舉ヲ停メサルヲ得サルナリ其他全ク局務ヲ廢シ或ハ撰舉ヲ辭退シ或ハ定數ノ吏員盡ク出席セス或ハ其業ヲ惡シテ怠慢スル吏員有ル時ハ統學院ヨリ事務ノ擔當ニ耐ヒスシテ全ク委托ニ孤負スル者ハ首做シ吏ニ適宜ノ處分ヲ為スヘキナリ

學務局ノ處分其宜ヲ得サル時ニ當テ統學院ヨリ之ヲ審判スルノ方法ハ第六十三章及ヒ六十六章ニ詳ナリト雖トモ該局員撰舉ノ當ラサルアリ或ハ非常不慮ノ關員アルニ由リ事務ノ繁忙ナル頗ル困難ニ陥ル時ニ於テ統學院ノ指令ヲ請フナク自ラ之ヲ裁決スヘキ方法ノ如キハ第二節ニ於テ詳示セリ又若シ初回撰舉ヲ為サシムルニ既ニ具時限ヲ制定スルモ材器ノ乏キ一個吏員タモ撰舉スヘキ者無シハ統學院ヨリ吏ニ異日ヲ定メテ撰舉ヲ

行フヘシ又三年一回ノ撰挙ニ於テ其人員不足ナル時ハ既ニ罷去スヘキ吏員ノ中復ヒ其職ヲ執ランヲ欲セハ亦之ヲ撰挙スヘシ然レ𪜈衆員皆再任ヲ欲セサレハ亦更ニ他日ヲ期セサルヲ得ス且其吏員ヲ撰挙スルニ其人員不足ナルニ方リ其罷去スヘキ吏員或ハ再任ヲ欲シ或ハ之ヲ欲セサル時ハ其定員ヲ具備スルニ至ル迄是等ノ人ヲ撰補シテ其闕員ヲ充塡セサルヲ得ス其或ハ死亡シ或ハ辞職シ或ハ負荷ニ耐ヒサルヲ以テ罷去シ自餘千差万別非常不慮ノ事件ヨリ闕員アルニ方ツテ之ヲ充塡スル方法ノ如キハ一切統学院ノ指令ニ之ヒ由ラサルヲ得サルナリ此等ノ時ニ当テハ統学院必ス至当ノ處分ヲ為シテ該局ノ望ニ応ラス

学務局員ヲ撰挙スルヨリ起リタル争論ヲ判決スルノ事

第三十三章今此條例ニ拠ルニ学務局吏員ノ有スヘキ権限上ニ付キ争議論難ノ生スル有レハ統学院必ス其事情ヲ審察シ公平正當ト考定スル

所ニ從テ其判決ヲ行ハサル可ラス而メ此命令
一タヒ發スル以上ハ宜シク之ニ服從ス可ク更ニ
刑法院及ヒ内閣大臣ヨリ特命ヲ下シテ之ヲ廢
除スルニ非サルヨリハ永久之ニ遵由ス可キナリ
凡ソ撰挙ノ事ハ昏記官及ヒ投票人其他之ニ
関係スル吏員ノ論定スル所ナレハ他人ノ敢
テ容喙スル所ニ非ルヲ以テノ故ニ統学院ヨ
リ学務局員ヲ撰挙スルハ最モ公平正確ニメ
各其任ニ耐ヘシメンヲ主トセルナリ

第三十四章　學務局吏員ノ過失ヲ論ス

凡ソ學務局ヶ長及ヒ吏員ノ官吏ヲ撰用スルニ
方リテハ一切各自ノ意見ニ仗ルヘシ其他人ノ
指令ヲ受ケテ之ト相謀議スル者ハ過失ト看做
サヽルヲ得ス又毫モ該局長權限ヨリ為シ得ル
所ノ約束處分ニ從ヒ因テ利益ヲ謀ルノ職ヲ受
ク可ラス是レ蓋シ偏黨私和アランヲ恐レテナ
リ而メ此等ノ輩ハ次條ニ詳記セサル可ラス
第一　學務局ノ為メニ土地ヲ賣与シ若クハ賃
金ヲ貸附スル事

第二 社員皆利益ヲ受クヘキ社會ノ約束処分ヲ為ス事

第三 學務局ノ事務ニ関セル稟告等ヲ新聞紙中ニ記載シ為メニ多少ノ利益ヲ得ル事

前文ノ如キ罪過ヲ犯ス者アレハ之ヲ譴責ス可シト雖モ萬一右ノ事件ニ一部分タリ共関係スル者ニ至テハ決シテ之カ討論ヲ為ス可ラス

何人ヲ論セス此條ニ違フル所ニ反對シ以テ動作スル者アラハ設若ヒ簡軽ナル罰ヲ加エルモ五十磅ニ過ヰサル贖罪銀ヲ出サシム可シ畢竟斯ノ如キ利益アル場処ト吏員ノ職掌トハ決メ并ヒ行シテ相戾ラサル者ニ非ルナリ

第三十五章 官吏ノ任補

凡ソ學務局ハ書記官掌金者及ヒ其他必須ノ吏員乃チ該局ヨリ任用スル学校教師ニメ或時ニ於テハ吏務ヲ犯ルヘキ者等ヲ除シ或ハ轉移スヘシ其供給酬労ノ金ヲ与附スル等モ亦預リ得ヘシ然レモ斯ノ如キ処分ハ該局吏員初回會合ニ於ルノ外ハ筆記セル稟告書ヲ諸吏員ニ普達スル後ニ非サルヨリハ決メ成スヘカラサルナ

リ

本文ニ登載セル教師ト云語ノ明解ヲ知ラン
ト要セハ第三章ヲ看ルヘシ

凡ソ学務ノ吏員ヲ命スルノ文案ハ局長之ニ
鈐印シ各員及ヒ書記官之ニ加印セシ者ヲ用
ヰヘシ斯ノ如クシテ余スル時ハ高等学務局ノ
印ヲ捺スル者ノ如ク正確ナル者ナリ(附加条
目第七傍注及ヒ三百五十三条ヲ見ル可シ)

教師ヲ撰任シ或ハ之ヲ黜退シ其他新ニ生セ
ル叢併即特通常定額出費ハ作ル消費等ニ関
セル事件ハ特ニ之カ報告表ヲ作リ遅クモ集
合ノ日前七日ニ於テ該局各員ニ普通スル ニ
非ルヨリハ決シテ施行ス可ラサルナリ(第三
附加条目ヲ看ルヘシ)

二箇以上ノ学務局ヨリ一個ノ人ヲ任用シテ二
箇以上惣学務局ノ官人タルヲ得セシムヘシ

学務局吏員ヲ任用スルノ事ハ第五十二章ヲ
見ル可シ

斯ノ如ク任用セラレシ人ノ如キハ一切学務局
吏員ノ安托スル所ヲ遵守シテ各般ノ事務局ヲ

處分スヘシ

凡ソ書籍帳簿ニ関セル吏員ノ職務ヲ知ラシ
ト要セハ附録二百六十八葉ニ登載セル濟貧
事務局ヨリ布達スル所ノ金令書ヲ看ルヘシ

第三十六章　学生ヲ少ス学校ニ就カシ
ムルヲ以テ職務トナスヘキ吏員

凡ソ学務局ニ於テ適当ト考定スル時ニ於テ児
ヲシテ学校ニ就カシムル為メニ此条例ニ拠リ
家則ヲ厳行スヘキ一二ノ吏員ヲ命スヘシ第一注
而シテ一千八百六十六年ノ勤競学校条例中掲示

スル所ニ拠リ適当ナル児童ヲシテ二個法官ノ
審査ヲ経ル後ニ於テ勤競学校ニ送ル可シ第二注
然ルニ此事ニ由リテ生スル所ノ費用ハ学校資
本ノ中ヨリシテ之ヲ支給セサルヲ得ス

第一注解児童ヲシテ之ヲニ就カシムル規則
ノ如キハ第七十四章ヲ看ル可シ

第二注解勤競学校條例ニ掲示スル所ニ拠リ
適当ナル児童ヲシテ勤競学校ニ送ルカ為メ
ニ法官ノ審査ヲ受クルノ事ハ第二十八章ノ
傍注ヲ看ル可シ

第三十七章首府中ノ学務局

縣地及ヒ濟貧税地ニ於テ学務局ヲ創立シ其吏員ヲ選挙スルヿニ関セル條例ノ如キハ素ヨリ首府ニ於テ用ユル能ハス首府中学務局ニ就テハ以下掲載スル條款ニ由ランヲ要ス

第一　学務局ノ吏員ハ統学院ヨリ命スル所ニシテ此條例ノ第五附加條目中ニ記載セル所ノ區分ヨリシテ撰挙スル者ナリ

爰ニ掲示セル土地ノ區分及ヒ各地撰挙ス可キ吏員ノ数ハ乃チ下文ノ如シ「メリーレホン」ニ於テハ七名「ファンスボリー」ニ於テハ六名「ランベス」ニ於テハ五名「トウウヰルハムレット」ニ於テハ五名「ハークネー」ニ於テハ五名「ウヰストミンストル」ニ於テハ五名「サウスウオーク」ニ於テハ四名「セチー」ニ於テハ四名「チエルシー」ニ於テハ四名及ヒ「グリーニウヰチ」ニ於テハ四名各員通計四十九名ナリ（第百八十葉ノ統学院ノ命令ヲ省ル可シ）

第二　統学院此條例ヲ発行セシニ於テハ速ニ命令ヲ下シ上条掲載スル所ノ土地ニ就テ區分

境界ヲ決シ且ツ各區撰挙スヘキ吏員ノ数ヲ定メサル可ラス（前条ノ注ヲ参考スヘシ）

第三　既ニ詳説セル学務局法制ニ於テモ條款ハ此章ニ云フ所ノ学務局法制ニ於テモ亦適用スルヲ得ヘシ而メ此学務局ノ名ハ之ヲ倫敦学務局ト称ス可キナリ

此条例中学務局ノ法制ニ関セル條款ハ詳ニ第三十章ニ掲載セリ而メ此学務局ナル者ハ本文ニ云ヒルガ如キ名称ヲ有セル一ノ社會始終連綿継續シテ善通正確ノ印章ヲ有スルモノナリ（第三十章ヲ看ルヘシ）

第四　学務局吏員初回撰挙ハ此條例ヲ施行スルノ後速ニ学務局ヨリ定ムル所ノ日ニ於テ行フヘシ而メ其後ノ撰挙ハ毎三年十一月中学務局ノ論定スル時日ニ於テ行フヘシ

一千八百七十年十一月二十九日ハ学務局吏員ノ初回撰挙ヲ行フヘク統学院ヨリ確定セシ時限ナリ（第百八十三章ニ掲示セル統学院命令ヲ看ルヘシ）

第五　毎區吏員ヲ撰挙スルニ当リ其投票人タ

ル者ハ皆其區ヨリ撰用スヽ可キ吏員ノ數ニ等シキ投票ヲ為スヘシ其投票ノ帰スル所ハ素ヨリ一ナラス或ハ一個ノ候缺者ニ与フ可ク又數個ニ分典ス可ク只其適当ト考定スル所ニ由ルノミ（第七十七条ノ注解ヲ看ル可シ）

第六　此章ニ掲示セル條款ト此條例中第二附加目ニ載ル所トノ統学院令ニ拠レハ倫敦中街ニ於ル学務局吏員ハ通常委員ヲ撰挙スルト同一ナル方法ニ後ヒヽヲ之ヲ撰挙スヽ可シ（第一注ヲ看ヘシ）然ルニ亦首府中他ノ區ニ於テハ一千八百五十五年ノ発行ニ係リタル首府監督條例及ヒ改定條例ニ拠リテ教會執事ヲ撰挙スルト同一ナル方法ニ由テ撰挙スヘシ而メ是等ノ方法ヲ用ヰント欲セハ普通議員ノ撰挙ニ関セル條例及ヒ一千八百五十五年ニ発行セル首府監督條例ノ十四章ヨリ十九章ニ至リ二十一章ヨリ二十七章ニ至ル迄ト一千八百六十二年ニ発行セル首府監督改定條例ノ三十六章（第二注）ニトハ此事ニ関シテ明瞭ナル解説アルヲ以テ学務局吏員ヲ撰挙スルニ当テハ最モ便宜ニメ採用スヘキ

者ナリ第三注ヲ省ルヘシ

第一注解倫敦府ニ於テ通常議員ヲ撰挙スル
ニ当リテハ「ヴォクトリヤ」女王律令第九十四篇
第十二号及ヒ第十三号又其第一篇ノ三十号
及ヒ三十一号ニ遵由セリ

ム

（第二注解）上條ニ援用セル省府監督條例ノ数
章ヲ詳ニセント欲スレハ附録百六十九葉ヲ
省ル可シ然レトモ此條款ハ一千八百七十年
十月二十七日ニ発行セル統学院ノ命令ニ因
リ学務局吏員ノ初回撰挙ニ於テハ頗ル齟齬
スル所アリ或ハ改更スル所アリ尚百八十葉
ヲ省ル可シ

（第三注解）一千八百七十二年第九月一日以前
ニ於テハ学務局吏員ヲ撰挙スルニ当リ通常

議員ヲ撰挙スルニ関セル條例ト首府監督
條例中ニ含有スル條款ノ如キハ統学院ヨリ
之ヲ廃止スヘキ権ヲ有セリ然ルニ此日以後
ニ至リテハ上下議院ニ由リテ決定セラルヘ
キニ非レハ撰挙ノ事ニ関シテ一切有スヘキノ
権アラサルヘカリシ

第七　学務局ノ吏員ハ常ニ完全富実セル公立
学校ノ供給ヲ集メ以テ其学庭ニ充備センヲ勉
ムヘシ而シテ統学院ヨリ学務局ニ達スル指令ノ
如キハ其学庭ニ関係スルカ如ク尚他ノ庭分ニ
ニ迫関係セリ其斯ノ如キ指令ヲ達スルニ先タ
チ其報告ヲ発スルカ如キハ統学院ノ必要トス
ル所ニ非ス

第八　統学院ハ斯ノ如キ庭分セル土地ノ境界
ヲ定ムルニ当リ学務局員ノ初回撰挙ヲ行ハン
カ為ニ書記官タルヘキ人ト庭分ノ土地毎ニ
書記官ト為ルヘキ人ヲ撰用セサルヘカラス
初回撰挙ニ用ヒラルヘキ所ノ書記官及ヒ庭地
ノ書記官ハ一千八百七十年十月七日ニ於テ
発行スル所ノ統学院命令ニ由テ撰用スヘシ

（附録百八十巻ヲ看ル可シ）而シテ如何ナル
撰挙モ既ニ書記官ノ定書ニ係ル者ハ復タ其
可否ヲ議ス可カラス
第九　学務局々長ハ宜ク該局員ノ撰挙スル所
タル可シ而シテ斯ク衆員ニ由テ撰挙推立セラル
ヽノ局長ハ該局中ヨリ起ルアリ或ハ否ルアリ
而ルニ此吏員中ヨリ撰挙サレシニ非ルノ人ハ
既ニ撰ハレテ其局員タリシ者ノ如ク永ク該局
ノ一員タル可キ十ヨリ
学務局々長給料ノ如キハ第三十八章ニ詳ス

第十　学務局ハ此條例中第一附加條目ノ第三
節ニ記載セル首府中各地區ニ於テ学校資本ノ
供給ヲ裨補スル為メニ課ス可キ金額ノ如キハ
一千八百六十九年ノ地價條例ニ由リ当時用ユ
ル所ノ地租目録ニ従ヒ平等ニ課スルヲ要ス然
ルニ若シ斯ノ如キ目録ノ未タ行レサルニ方リ
テハ尚之ト同一ナル比例ヲ以テ首府工部局ニ
於テ定ムル所ノ税則ニ従ヒ平等ニ之ヲ課ス可
シ

学校資本ノ缺乏ミ就テ論スル所ノ條款ハ詳
ミ五十三章及ヒ五十四章ミ在リ凡ソ地價目
録及ヒ収税簿ヲ調査スル所ノ監督者及ヒ其
他ノ人ハ学務局ヨリ是等ノ簿書ヲ検閲スル
ミ当テハ即チ之ヲ呈進スヘシ又該局吏員ノ
中及ヒ其事ミ関スル人ミシテ此簿書ヲ謄寫
抄録セント欲セハ之ヲ許スヘシ（第七十九
章ヲ看ルヘシ）蓋シ首府工部局ノ組税ヲ定
ムルミ就テ基礎トスル所ハ都府学税ヲ出ス
ノ多寡ミ従ヒリ又此税ヲ出サヽル場所ミ於
テモ之ト同一ナル根理ミ従フヘシ（ヴォクトリ
ヤ女王ノ律令第百二篇第六章ノ二十五節及
ヒ二十六節ヲ看ルヘシ）

第十一　学務局ヨリ首府ノ管理ミ係レル統計
局ミ書状ヲ贈リ若干ノ金額ヲ収受セント欲ス
ル時ハ該局ハ其平常権限ノ外更ミ宛モ首府工
部局ノ税額ヲ定メテ之ヲ課収スル時ノ如キ権
利ヲ有スヘキ十リ

首府中種々ノ濟貧税地及ヒ其他ノ場所ヨリ
工部局ノ課収スル所ノ金額ミ関セル款條ハ

詳ニヴナクトリヤ女王ノ律令第百二十箇第百七十二章第百七十四章ノ十八條及ヒ十九條并ニ同書第百ノ二箇第八章第十二三章ノ二十五六條ヲ省ルヲ可シ

第三十八章 局長ニ贈ル可キ需金

倫敦ノ学務局ハ時時統学院ヨリ確定スル所ノ俸給ヲ学務局長ニ與フ可キ十リ

第三十九章 吏員々数ノ変更スルヲ論ス

何レノ時ヲ俟セス倫敦学務局員ヨリ統学院ニ上請シ以テ此條例ノ第九附加條目ノ中ニ記載セシ学庭ノ人口ハ公會有司ノ査閲ニ由リテ知リ得ルヲ以テ以前ノ人口ニ異ナルアリ且其出税ス可キ地價モ亦前年ト同シカラサルヲ表シ前後ノ事情ヲ枚挙シテ統学院ニ知了スル所有ラシメハ該院ヨリ詳ニ其事情ヲ検査シ適当ト考定スル時ニ於テ該庭及ヒ其他ノ庭ニ就キ吏員々数ヲ変更スルノ命ヲ発ス可シ

此條例中ニ云フ所ノ出税ス可キ地價ナル者ハ地租目録中ニ記スル所ノ者ニシテ若シ地租目録ノ行ハルヽ無キ時ハ集合以テ庭

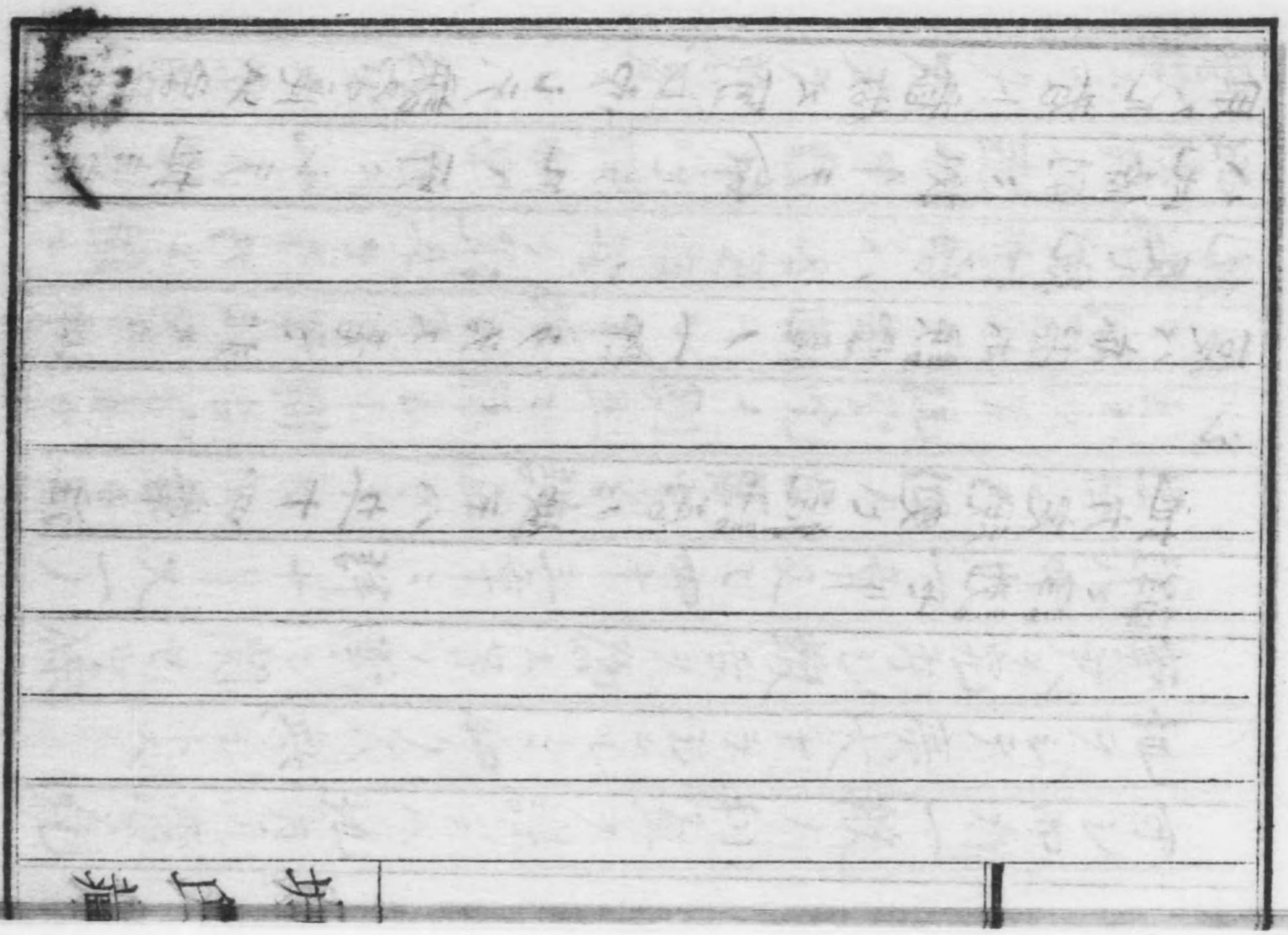
ヲ作ス所ノ濟貧稅地中ニ行レテ收稅漏上ニ
記載スル所ノモノヲ得フナリ（第七十九章ヲ看
ルヲ可シ）
若シ一屆吏員ノ數減少サルヽニ方リテハ局
長必ス速ニ借員ヲ會集シ之ヲシテ投票ヲ為
サシメ其罷退ス可キ者ヲ定メテ之ヲ減省セサ
ル可ラス（第二所加條目ヲ看ル可シ）

第四十章　聯合學屆并ニ統學院ヨリ讀學
屆ヲ創立スル事

統學院ニ於テ此條例ニ拠リテ編制スル所ノ縣
地濟貧稅地及ヒ吏ニ廣大ナル學屆ヲ創立スル
ヲ以テ便宜ナリト考定スル時ハ後章ニ記載ス
ル如キ方法ヲ以テ其事實ヲ精究シ且ツ報告ヲ
為シ然ル後吏ニ命令ヲ下シ首府外ニ於テ接近
セル二箇以上ノ學屆ヲ聯合シ以テ聯合學屆ヲ
創立シ且此聯合學屆ノ中ニ之ヲ統轄ス可キ一
ノ學務局ヲ置カサル可ラス
ホルズテル氏ノ曾テ議員タリシ時ノ言論ヲ見
ルニ其意蓋シ謂ヲクル所ノ聯合學屆ヲ創立ス
ル時ハ能ク稅額ヲシテ平等ナラシムルヲ得

可シ而シテ一般ノ利益ヲ謀ラハ地方ノ濟益ヲ
地ラシテ廣大ナラシムルニ如クハ無シトス
事実ヲ究考シ報告ヲ為ス等ノ事ニ関セル條
欵ハ四十一章及ヒ四十三章ニ詳ナリ又一ノ
学務局ノ他ノ学校中ニ設立セラルヽ有ルモ
之ヲ以テ統学院ノ創立ニ係レル聯合学庖中
ニ読学庖ヲ含有スルヲ拒ム等ノ事ハ決シテ
無キ所ナリ
此條例ノ趣旨ヲ見レハ聯合学庖ハ一ノ学庖ト
看做スヲ可クシテ又之ヲ熟察スレハ種々ノ学庖ニ代

用スル者ト看做スヲ可シ而シテ読学庖ハ学務局
ハ此條例ニ拠リテ命セラルヽ所ニシテ地方定
税及ヒ統計局ハ各学庖毎ニ設立セリ乃チ読学
庖ハ亦出ス読学庖ノ一部ヲ為ス者ニ非ルカ如
シ
地方定税及ヒ統計局ノ如キハ五十四章ノ注
解ニ詳説セリ



終